

学士課程における助産師教育課程 年次報告書

千里金蘭大学学士課程における助産師教育課程

令和4年 7月

1. 設置者

学校法人金蘭会学園

2. 教育上の基本組織

- 1) 名称 千里金蘭大学
- 2) 所在地 大阪府吹田市藤白台5丁目25番地1号
- 3) 学士課程における助産師教育課程名 千里金蘭大学看護学部看護学科
- 4) 委員会等 (資料1: 組織図)

大学協議会、企画・調整委員会、大学院設置準備委員会、教授会、人事委員会、アドミッション委員会、大学入学共通テスト委員会、研究推進・社会連携センター委員会、広報委員会、人権委員会、人を対象とする研究倫理審査委員会、個人情報保護委員会、自己点検・評価委員会、FD委員会、教務委員会、学生委員会、図書委員会、情報委員会、就職支援委員会、IR推進室会議、教養教育運営審議会、衛生委員会、国際交流部会、大学改革（教員養成）検討委員会、就職支援センター会議、遺伝子組み換え実験安全委員会、病原体等安全管理委員会、教員養成カリキュラム委員会、保育士養成カリキュラム委員会、プラットフォームに係る連絡調整会議、後援会

- 5) 学長・学部長等及び助産師教育課程責任者名

学長 島崎 靖久

看護学部長 田中 恵子

助産師教育課程責任者 田中 恵子

3. 教員組織（様式3の表13、表14を添付）

教員数 専任教員5名（教授1名、准教授1名、講師1名、助教2名。うち母性看護学との兼担 2名）

非常勤教員3名

4. 収容定員及び在籍者数（様式3の表8、表9、表10を添付）

収容定員 14名

在籍者数 14名（3年次7名 4年次7名）

令和3年度の履修取り消し者はなかった。また令和3年度3月に実施した選抜試験の受験者は16名（競争率2.3倍）であった。

5. 入学者選抜

1) アドミッション・ポリシー

- ①助産師を志す明確な意志を有している人。
- ②助産学を学ぶ上で必要な基礎学力と、看護学の基本的知識を備えている人。
- ③協調性があり、他者とコミュニケーションがとれる人。
- ④豊かな人間性と、看護を基盤とした倫理観を有している人。
- ⑤社会に対し関心を持ち、地域の母子保健や周産期医療に貢献しようと意欲のある人。

令和3年度卒業の助産学生は7名全員が単位修得できており、卒業時に実施したディプロマ・ポリシー調査（資料2：DP到達度調査結果）でも概ね良好な到達度が示された。このことから、助産課程履修前のレディネスや選抜基準は妥当であると判断し、現行のアドミッション・ポリシーを継続して掲げていく。

2) 令和3年度入学者選抜方法

助産師を志す明確な意志を有する者として、公衆衛生看護学選択科目の履修者選考試験との併願はできないことになっている。また助産学を学ぶ上での基礎学力と基礎的知識を備えていることとして、第4セメスターまでの専門科目のうち、すべての必修科目を修得していなければならない。令和元年度入学生から新カリキュラムが開始し、令和元年度入学生が2年生になる令和2年度より助産論演習の単位を修得していることが加わった。また母性看護学に関連する2科目（母性保健医療学演習、母性看護対象論）は筆記試験により知識や理解度を把握している。面接ではグループディスカッションにより、社会性や協調性、倫理感、コミュニケーション能力を総合的に評価している。平成27年度卒業生からは助産師教育課程の退学者はなく、入学した学生全てが助産師免許を取得できている。このことから、アドミッション・ポリシーに適った学生を適切に選抜できていると評価できる。

6. 教育課程及び教育方法

1) 教育目的

助産師教育課程の教育目的は、大学全体の理念および看護学部教育理念をふまえ、「豊かな人間性と倫理観を有し、基本的な助産実践能力を備えた助産師を育成する」と設定し、6つのディプロマ・ポリシーを置いている。資料2に示すとおり、学生はすべてのディプロマ・ポリシーにおいて「到達できた」と評価していた。

ディプロマ・ポリシー1は助産師のアイデンティティ育成の到達状況を示すと考えているものであり、本学助産師教育において重要視しているものである。前年度、全員が「かなり身についた」のに対し、令和3年度は「かなり身についた」7割、「ある程度身についた」が3割であった。コロナ禍による臨地での実習時間の短縮、

臨地と学内の実習運営等が影響していると考えられる。ディプロマ・ポリシー3はマタニティサイクルへの実践能力を指し、「かなり身についた」が6割、「ある程度身についた」が4割、4はウィメンズヘルス実践能力を指すものであるが、「かなり身についた」が7割、「ある程度身についた」が3割であった。今後も助産院での継続事例への学習を重要視し、また大学祭等を利用した母子保健に関する健康教育への参加を促進し、学習を深めさせていきたい。ディプロマ・ポリシー5・6では、「かなり身についた」と答えた者が令和2年度調査同様に多かった。令和3年度より大阪府助産師会産前産後ケアセンターの見学実習、NPO 児童虐待防止全国ネットワークの「2021年学生によるオレンジリボン運動」への参加を開始したことも助産師の専門性を培う姿勢にプラスの影響を与えていた。

2) 教育課程

統合カリキュラムとして必要履修単位を減らすことなく、保健師助産師看護師養成所指定規則で定められている28単位はすべて助産専門科目で配置している。講義・演習・実習とも制約の多い学士課程の中で助産実践能力修得、質向上に向けた努力を続けている。令和元年度入学生(12期生)より助産論演習が開始し、26名と多くの学生が履修した。令和4年度の新カリキュラム施行に向けて、今後も実践に繋げた教育内容を検討していきたい。

3) 教育方法

7名で少人数授業や双方向的授業が行いやすい。教育上の工夫として、健康教育では模擬患者や教育ボランティアを活用した学内演習、分娩期では臨床推論、OSCEを導入し実習へと繋げている。NCPR(A)の取得や臨床助産学セミナー(母乳育児支援やフリースタイル出産)も開講している。コロナ禍の助産学実習では、直接介助平均8.4例、学内演習平均3.4例であった。令和3年度末には実習施設合同の指導者会が開催できなかったため、翌年の助産学実習打ち合わせ会には総括資料を提示し、教員と指導者との連携等について確認を行った。

7. 成績評価及び課程の修了

1) 成績評価

成績評価の基準は学修要項に規定し、1年次入学オリエンテーションから学生に周知している。シラバスには単位認定基準と点数の構成要素・配分を明記し、助産師教育課程オリエンテーションや各科目の初講時に学生に周知している。成績判定にあたっては、母性看護学・助産学領域会議において試験の難易度や採点の適切性、成績判定の妥当性を審議し決定している。また、全ての科目で追再試験の機会を確保し、十分な学修時間を確保して試験に臨めるよう日程も配慮している。令和3年

度の成績判定の状況は資料3（助産師課程科目成績一覧）の通りであった。

2) 課程の修了

卒業要件は看護基礎教育の大学卒業要件を満たし、そのうえで、助産師教育課程で規定した28単位を修得することとしており、これは大学学則に定めている。令和3年度においてもその条件を満たした者を課程の修了者とし、助産師国家試験受験資格を与えている。令和3年度の課程修了者は7名で、助産師教育課程の選抜試験合格者全員が課程を修めた。また看護師国家試験、助産師国家試験に全員合格した。助産師教育課程のディプロマ・ポリシーの到達度調査結果（資料2）からは、現行の教育課程・方法が本学の助産師教育課程の目的・目標に適うものであると判断された。

8. 学費及び奨学金等の学生支援制度

1) 学費

年間159.6万円（助産教育課程は別途15万円の履修費が必要）

2) 奨学金

<給付>

学内：学業優秀者奨学金	327,000円/年	受給者：1名
日本学生支援機構	38,300円/月	受給者：1名
	25,600円/月	受給者：1名

<貸与>

日本学生支援機構	1種	54,000円/月（無利子）	受給者：3名
		30,000円/月（無利子）	受給者：1名
日本学生支援機構	2種	100,000円/月（有利子）	受給者：2名
		50,000円/月（有利子）	受給者：3名

9. 卒業生の進路及び活動状況（令和3年度3月卒業生7名）

1) 助産師

病院 7名 診療所 0名 助産所 0名 その他 0名

2) 助産師以外

なし